

ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会での検討及び実証実験について

1. 研究会での検討について

○ペットボトルを始めとする容器包装について、容器包装リサイクル法に基づく「リサイクル」は一定程度進展してきたが、更なる循環型社会の形成を目指して廃棄物の発生抑制とより一層の環境負荷低減を図るため、平成20年3月に「リユース」や「デポジット」の導入について検討する「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会（座長：安井至 国連大学名誉副学長、東京大学名誉教授）」を設置。これまで、5回の審議を行った。

○平成20年7月の中間取りまとめでは、「ペットボトルリユースに係る諸論点を検討する上では」「リターナブルペットボトルに対する消費者の受容性や回収率、消費者から返却されたボトルの状態、洗浄技術の実証等を実際に調べるための販売・回収・洗浄に係る実証実験を行うとともに、消費者がペットボトルを誤用した場合を想定した汚染・洗浄・検知の実証実験を行うことが有用」であり、「今秋に実証実験を行うことが適当である」とされた。

2. 実証実験について

○「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」の中間取りまとめを踏まえ、平成20年8月から、クローズドシステム（宅配販売）とオープンシステム（地域店舗店頭販売）の双方で、デポジット制を利用したリターナブルペットボトル入りミネラルウォーターの販売・回収・洗浄に係る実証実験を実施している。

<ペットボトルリユース実証実験の概要>

◆販売する商品：ミネラルウォーター1.5リットル（専用ボトルを使用）

◆販売方法：

- ・オープンシステム（店頭販売）、クローズドシステム（宅配）の2つの方法で販売。
- ・商品価格（130円）にデポジットを付与（横浜市：10円、柏市：20円）。

◆販売店・地域

オープンシステム：京急百貨店（横浜市）、イトーヨーカドー 綱島店（横浜市）、
apris KEIHOKU（柏市）

クローズドシステム：パルシステム千葉（柏センター）

◆販売時期

1 次販売：8 月 30 日～

2 次販売：1 月 24 日～（3 月下旬まで回収を行う予定）（注）

◆回収方法

オープンシステム：京急百貨店及び apris KEIHOKU は自動回収機。イトーヨーカドー 綱島店はサービスカウンター。

クローズドシステム：パルシステム千葉（柏センター）は宅配時に箱入りで回収。

◆洗浄：洗びん工場にて洗浄。洗浄の前後に汚損ボトルを除去するよう検査を実施。

◆アンケートの実施：オープンシステムにおいては、店頭での販売時及び返却時に、購入者及び非購入者にアンケートを実施する。クローズドシステムにおいては、販売時にアンケートを同封することにより行う。

注）当初平成 20 年 11 月から 2 次販売を開始する予定であったが、再充填後の品質検査において風味不良が確認されたため、実施を延期。その後、原因の調査を終え、必要な措置を実施した上で、テスト充填を行い同様の試験を行った結果、問題がないことを確認したため、平成 21 年 1 月から、2 次販売を開始したところ。

※風味不良の発生と措置内容

・風味不良の原因：洗浄工程で使用する洗浄液の調合不備による洗浄力の低下。

・措置内容：

①洗浄液成分の組成、温度、時間を点検し、正確に調合した上で、洗浄を実施。

②万全を期すため、洗浄設備をステンレス製の小規模洗浄機に変更。

<1次販売 販売と回収の結果（1月4日現在）>

	オープンシステム				クローズドシステム				合計			
	販売 (本)	回収 (本)	回収 率 (%)	回収 本数 増加 分 (本)	販売 (本)	回収 (本)	回収 率 (%)	回収 本数 増加 分 (本)	販売 (本)	回収 (本)	回収 率 (%)	回収 本数 増加 分 (本)
2008.8.30 ～10.23	650	270	41.5		1420	612	43.0		2070	882	42.6	
～11.17	650	337	51.8	67	1420	1245	87.7	633	2070	1582	76.4	700
～2009.1.4	650	348	53.5	11	1420	1245	87.7	0	2070	1593	77.0	11

*2008年11月出荷用として、10月23日までに回収したボトルを洗浄に回した。

*上記に風味不良が生じ、当該ボトルの改善見込みが立たなかったことから、10月24日以降11月17日までに回収したボトルを2009年1月出荷用として洗浄に回した。

○実験結果については、消費者の受容性や回収率、小売店の意識、汚損ボトルの除去や、コスト・環境負荷等について検証を行い、同研究会において検討を進める予定。

ペットボトルを始めとした容器包装の
リユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会

- 委員名簿 -

(敬称略、50音順)

○座長

安井 至 (国際連合大学名誉副学長、東京大学名誉教授)

○委員

浅利 美鈴 (京都大学環境保全センター 助教)

織 朱實 (関東学院大学法学部 教授)

西川 秋佳 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 病理部長)

林 英一 (PETボトルリサイクル推進協議会 リターナブル分科会委員長)
(日本コカ・コーラ(株) テクニカルコマーシャリゼーション パッケージグループ グループマネジャー)

松永 和紀 (サイエンスライター)

馬奈木俊介 (横浜国立大学経営学部 准教授)

森口 祐一 ((独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長)

若森 資朗 (パルシステム生活協同組合連合会理事長)